

公開講座 第20回光明池セミナー 報告

先に実施しました公開講座「光明池セミナー」について、下記のとおり報告します。
また、あわせて参加いただいた皆様、運営にご協力をいただいた皆様に心よりお礼申しあげます。

1 第20回光明池セミナーの概要

日時 令和7年7月22日（火）午後2時から4時30分

場所 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 研究所大会議室

対象 大阪府民、教育関係者、病院関係者、
大阪府内の保育園、幼稚園、小中高・支援学校の教職員及び保護者
参加者数83名（講演者、スタッフ等を含む）

内容 テーマ「医療的ケアの必要な子どもたち」

（1）講演「大阪府医療的ケア児支援センターの活動」

大阪母子医療センター 新生児科主任部長 望月成隆医師

設立の背景や活動実績、求められる機能と課題などについてご講演いただいた。
地域の実情に合わせた支援の取り組みが必要なことから、学校や地域との連携を強く感じる内容であった。

講演「医療的ケアの子どもを家族と共に育むために、大切にしていること」

大阪母子医療センター 患者支援センター副看護師長 江口奈美看護師

入院から退院、在宅移行前後の支援について事例を交えて詳しく教えていただいた。また、就学前から成人後までの事例が紹介されたことで、支援の流れを理解することができた。

（2）分教室発表「分教室（院内学級）での取り組み」

大阪府立羽曳野支援学校 大阪母子医療センター分教室 中村 卓靖

主にベッドサイド授業の様子を、動画と写真で報告した。また、各々の実態に合わせた支援のための教材などの紹介と展示を行った。

2 アンケート結果等報告

学校ホームページからの申し込み状況（参加者の82%）

- ・校種 ①小学校（57%） ②中学校（23%） ③本校以外の支援学校（9%）
④認定こども園（6%）

参加者情報（アンケートより）

- ・年齢層 ①40～50代（60%） ②20～30代（36%） ③60～70代（4%）
- ・参加回数 ①初めて（71%） ②2回目（9%） ③それ以上（20%）

セミナーの内容について

- ・医師の講演 ①とてもよく理解できた（71%） ②ほぼ理解できた（27%）
- ・看護師の講演 ①とてもよく理解できた（80%） ②ほぼ理解できた（20%）
- ・分教室発表 ①とてもよく理解できた（80%） ②ほぼ理解できた（20%）

自由記載（一部抜粋）

・今日は貴重なお話をありがとうございました。初めてセミナーに参加させていただきましたが、いろいろなことを知ることができ勉強になりました。今年度、こちらの母子センターに通っている生徒を担当しています。今日のお話をいかしていけるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。

・医療ケアのある子どもたちの、思いと保護者の思いをこれからも大切にしたい。
小学校に入学してくれたら、できるサポートをしたい。

- ・医療的ケアについて詳しい研修も受けられていない中、赴任した学校には医療的

ケアが必要な生徒がいて、どこに頼ればいいのかもわからない中対応にあたってきました。今回の望月先生のお話で、医療的ケア支援センターの存在や、コーディネーター拠点施設の存在を知ることができたので、今後困ったときは相談させていただきたいと思います。医療の知識が乏しい学校関係者にとって非常にありがたい存在です。貴重なお話ありがとうございました。

- ・医ケアの支援センターでの取り組みのご苦労や、看護師さんの寄り添い、分教室の先生方の工夫など様々な課題に対応されていて普段触れることのない情報を知ることができました。

- ・3人の方がそれぞれの立場から、どのような支援ができるのかを考え、実践されていることがよくわかった。

- ・医療的ケア児を取り巻く現状がよくわかりました。これから地域の小中学校でも体制づくりをしていかないといけないことなので、しっかり向き合っていきたいと思います。

- ・長期入院を経て退院した子のその後の経過。

- ・羽曳野支援学校の取り組みについて知ることができ、とても参考になった。

- ・ベッドサイドでの医療的サポートが必要な児童への教育方法が、映像があり、とてもわかりやすかったです。

- ・通常学校に通学出来ない子どもたちのベッドサイドでの学習の様子を見ることができ、皆意欲的で勉強になった。

- ・医ケアとベッドサイド授業の内容が特に勉強になりました。肢体不自由の学校が未経験なので、とても新鮮でした。電池で動くおもちゃだったら、どれにでも装着できるというスイッチの教材など初めて目にするものもあって、目から鱗でした。

3 考察とまとめ

- ・医師、看護師の講演、分教室発表ともに「よく理解できた」「ほぼ理解できた」という意見がほとんどであり、好評であったことがうかがえる。

- ・初めて参加した方の割合が71%と多く、「医療的ケア」のテーマの需要が高かったことがうかがえる。また、昨年度同様大変暑い時期であったが当日の欠席者が少なく、申込者の参加の意思が強かったと思われる。

- ・病院との共催であり、府民講座であるという特色から、病院経由の申し込み者には看護師や保健師などの参加がある。学校の研修とは違った層にも提言ができたと思う。

- ・昨年度より地域の認定こども園・小・中学校所属の参加者の比率が高い。医療的ケアの必要な子どもたちの通園通学の選択が広くできるようになってきている現状を表しているのではないかと思う。